

令和2年度

京都市立醍醐中学校

学校だより

第4号

令和2年7月1日 文責 林



新しい日常への工夫

裏面に7月の行事予定をのせておきます。ご覧ください

6月15日（月）より一斉登校を再開して、通常の学校生活に戻しました。また、1年生の部活動見学や体験を経て、1年生も入部しての部活動が始まっています。放課後、校内のあちこちから生徒の歓声が聞こえてきます。「日常」が少しずつ戻ってきていることを実感しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために休校が長期間にわたり、何気ない日常の大切さを改めて痛感しています。ただ、すべてが元に戻ったわけではありません。毎朝の検温や手洗いの励行、マスクの着用は引き続き必要です。放課後には、教職員が手分けして、机やイス、多くの生徒が手を触れるドアノブや手すり、スイッチなどを消毒しています。

密閉、密集、密接の「3密」を避けるべく他者との間に間隔をあける、向かい合っただけの会話を避けるなどの新しい生活様式が提唱されています。学校でも「3密」を避けるための工夫を授業や学校行事で進めています。例えば、6月22日（月）の前期学級委員の認証式は、オンラインで実施しました。今までは、全校生徒が体育館に集合して行っていましたが、今回は生徒会本部役員と3年生の学級委員が体育館に集合して、生徒会本部役員に司会をしてもらって、私から認証書を手渡しました。1年生と2年生の教室にはオンラインで映像と音声を送って、生徒はテレビ画面を観て参加する形にしました。1年生と2年生の学級委員には担任の先生から認証書を手渡してもらいました。

認証式では、私から全校生徒に向けて二つの話をしました。一つ目は、「選ばれた責任」と「選んだ責任」を果たしてほしいということです。学級委員に選ばれた人は、責任をもって与えられた役割を果たすことは当然ですが、学級委員でない人も「選んだ責任」として学級委員に任せきりにするのではなく、協力してほしいのです。そのことが「選んだ責任」を果たすことになります。生徒会活動が元気の学校は、学校全体が元気です。全校生徒が協力して生徒会活動を活発にしていってほしいものです。二つ目は、紙の見方を例に挙げて、自分の見方とは違った見方をする人もいることも考えて、自分の固定観念にとらわれずに、視野を広げてほしいことを話しました。視野を広げることで他者の価値観や考え方も共有できるでしょう。そのことで新しい発見にもつながるかもしれません。

これからも学校生活のさまざまな場面で新しい工夫をしていきたいと考えています。



雑感

6月19日（金）から延期されていたプロ野球がいよいよ開幕しました。当面は、球場に観客を入れずに無観客で試合が行われています。テレビで観戦しているとバットにボールが当たった時の打球音やピッチャーが投げた投球がキャッチャーのミットに吸い込まれた時の音に驚きます。観客席からの声援がある時には聞こえなかった音です。すごい音がします。これがプロの技だと改めて感心しています。最初は、無観客だと楽しみが半減するのではないかと心配していたのですが、新しい発見があって、楽しく観戦しています。このことも新しい日常に数えられるのでしょう。

新型コロナウイルス感染症が収束するのには、今しばらく時間がかかるかもしれません。収束した時に、単純に以前の状態に戻すことは不可能だし、戻してはいけないと思っています。新型コロナウイルス感染症の困難に打ち克つために苦しいながらもさまざまな工夫や挑戦をしてきました。その中で新しい発見があったり、視野を広げることにもつながったと考えます。単純に元に戻すことで工夫や挑戦を無駄にしていけないと無観客のプロ野球の試合を観戦していて感じました。